

事業の背景・目的

本種が国内希少野生動植物種に指定された2019年から、許可を得て本種の捕獲や飼養による調査を実施している。生息域内では2019年、捕獲調査により、新潟県下越地方で3箇所新たな生息地を発見する成果を上げている。生息域外では、飼養により頻繁に砂泥に潜ることや、夜間に活発になる行動生態を明らかにしている。本事業で繁殖を成功させ、繁殖技術を確立して生息域外保全の基盤とする。更に生息地調査も実施することにより、生活史や繁殖生態などの生態を解明し、新規の生息地を探す調査も実施する。併せて普及啓発を行い本種を保全する。

事業の内容

ア 生息域外保全事業

ガラス窓付FRP水槽、アクリル製90cm水槽と既存の水槽に加え、仔稚魚の育成用としていたアクリル製60cm水槽も繁殖水槽に用いて、繁殖の確率を上げた。繁殖期後となったが、本事業により、屋外にガラス窓付FRP水槽1槽を増設した。

イ 生息地調査事業

生息地の調査と新規の生息地を探す調査を実施した。生息地では、環境DNAによる生息確認が可能なかの調査も実施し、後日、環境DNAを用いて生息調査をした。生息地の排水時と後日の貯水時に赴いて活動した。

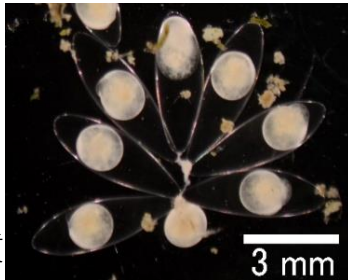
普及啓発

当館（新潟市水族館マリニピア日本海）で通年展示し、メディアで本種についての情報を発信した。

得られた成果

ア 生息域外保全事業

本種は春季の繁殖期、雌に婚姻色が発現する。2022年5月1日、婚姻色の発現した雌1個体と雄1個体をアクリル製60cm水槽に収容したところ、5月7日に産卵があり、雄による卵保護と卵を記録した。卵は一端に付着糸叢のある付着沈性卵で、長径 4.56 ± 0.23 mm、短径 1.50 ± 0.05 mm(n=7)、卵数85粒、うち正常に基質に付着し垂下していたのは、6粒であった。卵は発生しなかった。



イ 生息地調査事業

環境DNAを用いて生息確認が可能なが判明し、後日の調査で3箇所からDNAが検出され、うち1箇所は新規の場所だった。生息地の排水時、混獲防止や流出防止を実施し、貯水が開始後、流下していた約1,000尾を堤に戻した。

普及啓発

通年展示および当館のツイッター、インスタグラム、共同通信社信社47NEWSに掲載し、認知度の向上と保全意識の醸成を図った。